



NAGASAKI UNIVERSITY ACCESS MAP

JR長崎駅から
路面電車

1番3番系統「赤迫」行き

「長崎大学前」下車

徒歩すぐ

長崎バス

「長崎駅前」バス停(高架広場下)
1番系統の「時津」「上床」「長与」等

「長崎大学前」下車

徒歩すぐ

※駐車場はありませんので
公共交通機関をご利用ください。

参加無料

会場／長崎大学中部講堂
(文教キャンパス内)

お申し込み・お問い合わせ

お申し込みは長崎大学ホームページへ

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/>

受付電話番号

TEL.095-819-2007
(長崎大学広報戦略本部)

※受付時間／平日 10:00～17:00

国立大学法人

長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

〒852-8521 長崎市文教町1-14

長崎大学 リレー講座2015 開講にあたって



長崎大学長
片峰 茂

地方の個性に基づく多様性。それこそが、グローバル化する世界で存在感を発揮するための日本の最大の資産です。他にはない自然環境と歴史的資産に恵まれた長崎。この西崖から国の未来と地球の持続的発展に貢献する光を放つ。そのためのグランドデザインと地域の大学が果たすべき役割を、皆さんとともに考えたいと思います。



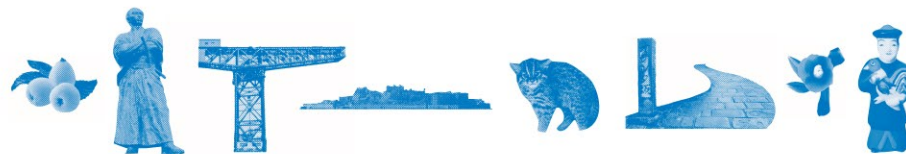
長崎新聞社
代表取締役社長
才木邦夫

各界で活躍される方々を招いて開かれる本講座は、多くの学生や市民が参加し、グローバルな人材を育て、地域の視野を広げる取り組みとして評価されています。今回も興味深い講師陣がそろい、どんな話が聴けるのか楽しみです。人口減や少子高齢化など、地方の未来には深刻な課題が横たわっています。本講座で得られた知恵やヒントを明日へと突き進む力とし、これらの課題を乗り越えましょう。



十八銀行
代表執行役頭取
森拓二郎

本年より弊行も「長崎大学リレー講座」に共催することとなりました。2010年より開講された本講座は、長崎大学による「地域の知の拠点」を目指す活動の一環として、既に多くの方々に認知されており、明日へと向かう力を与えてくれています。今回も素晴らしい講師の方々による貴重な講演は、私達の「まち」長崎の未来に向けて大きなヒントを与えてくれるでしょう。一人でも多くの方々に聴講していただくことを期待しております。



後援／長崎県・長崎市・長崎市教育委員会・長崎経済同友会・長崎県経営者協会・
長崎商工会議所・(一社)長崎青年会議所・長崎都市経営戦略推進会議・
長崎経済研究所・NHK長崎放送局

いま求められる 地方の力

長崎大学リレー講座2015

30年後、地方はどうなっているのか。

人口急減・超高齢化する社会の中で発展する未来を想像するのは難しい。

では、どのようにすれば地域の特徴を活かして

自律的で持続的な社会をつくることができるのか。

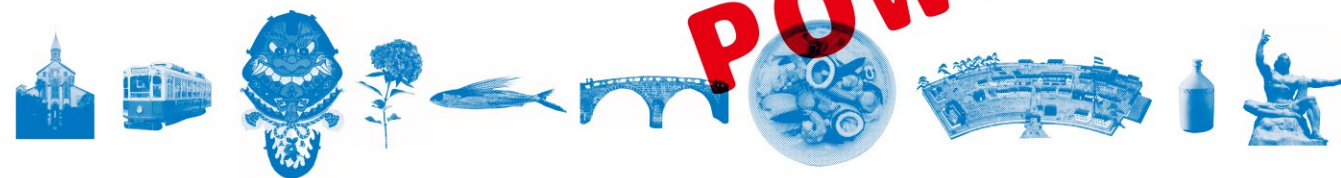
2015年のリレー講座では、

6人の識者による講演を通して地方の可能性に光をあて、

地方創生に何が必要なのかについて考える。

THINK
LOCAL
POWER

DISCOVER
NAGASAKI
地域力は
どこにある



主催／長崎大学 共催／長崎新聞社 十八銀行

いま求められる地方の力

第1回

5月31日(日)
15:00～16:30

長崎創生に向けて 問いかける

～17世紀オランダと江戸期日本からの視界～

わたしはこの数年、「17世紀オランダからの視界」を軸に日本の近現代を見つめ直してきた。そのなかで改めて感じるのが長崎という地の役割の大きさだ。地域に埋め込まれたDNAを掘り下げ、長崎のもつ本質を問い直すことが、新たな創生に向けた最重要の課題と考える。



寺島実郎
(一財)日本総合研究所 理事長
多摩大学学長

早稲田大学大学院政治学研究科修士課程終了後、三井物産入社。三井物産常務執行役員、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授等を経て現職。著書に「若き日本の肖像：1900年、欧州への旅」(新潮社)



木村直樹

多文化社会学部
准教授

第2回

6月3日(水)
19:00～20:30

長崎の人口推計と 地域雇用

今後の長崎県の人口推計と自然増減・社会増減について議論し、これに大きな影響を与える雇用創出のあり方について論じる。これまでの地域創成策の失敗原因を顧み、成功事例を参考に効果的な取り組みについて検討する。とくに自治体、産業界、労働界、金融機関、大学、そして政府の果たすべき役割を考察する。



樋口美雄
慶應義塾大学商学部教授

1952年生まれ。慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了。商学博士。主な研究分野は労働経済学・計量経済学。最近の対談で、樋口美雄×増田寛也『地方消滅—東京一極集中が招く人口急減』(増田寛也著、中公新書)などがある。日本創成会議のメンバーとして活躍。



近江美保

多文化社会学部
准教授

第3回

6月8日(月)
19:00～20:30

地方の資産を活かす 地域文化の可能性

美術は地域の特質を発見する。他者の土地に設置することで、反対・批判を経て協働を誘発する。更にまた、そのが弱く、手間がかかり、直接的に役に立たないという存在によって、そこに関わる人たちを媒介する働きがあり、それが均質化し、ただ効率化に向かっていく社会の価値観に風穴をあけた。その美術による地域づくりを説明する。



北川フラム
大地の芸術祭総合ディレクター
瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター

1946年新潟県生まれ。東京芸術大学卒業。「アントニオ・ガウディ展」、「アバルト・ヘイト否!国際美術展」「ファーレ立川アートプロジェクト」等をプロデュース。「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」「瀬戸内国際芸術祭」では総合ディレクターをつとめている。



堀内伊吹

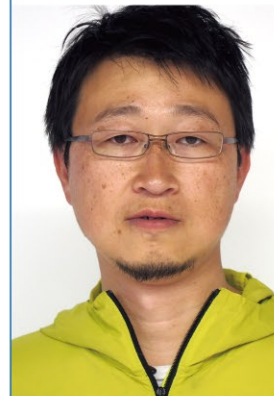
教育学部
教授

第4回

6月29日(月)
19:00～20:30

ローカルベンチャーが 地域を変える

どれだけ立派な計画を立てたところで、やる人がいなければ意味がない。岡山県西栗倉村では、地域資源から新たな価値を創造するローカルベンチャーの育成に力を入れ、人口1500人の村に10社以上のベンチャーが生まれ、70名以上の雇用が創出された。このプロセスについて説明する。



牧 大介
株式会社西栗倉・森の学校
代表取締役 校長

1974年生まれ。京都大学大学院(森林生態学)修了後、コンサルタントとして、農山漁村における新規事業の企画・プロデュースを手掛けてきた。2009年に(株)西栗倉・森の学校を設立。



渡辺貴史

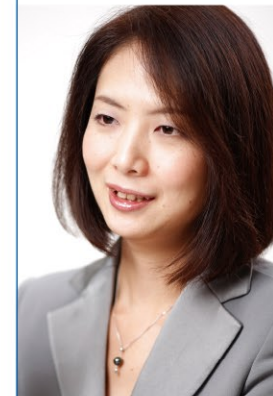
水産・環境科学総合研究科
教授

第5回

7月13日(月)
19:00～20:30

中小企業支援の鍵は、 おせっかいとえこひいき

政策メニューを用意して、相談に来る企業を待つだけの中小企業支援は機能しない。中小企業の現場を歩き、ニーズをくみ取り、政策マッチング、企業マッチング、異業種マッチングを担当すべきは誰か。先進的自治体や企業の取り組みを通じて、地方の中小企業支援のあり方を考える。



藤沢久美
シンクタンク・ソフィアバンク 代表

国内外の投資運用会社勤務を経て、1996年に日本初の投資信託評価会社を起業。2000年にシンクタンク・ソフィアバンクの設立に参画。現在、代表。文科省参与、政府各省の委員や理事、上場企業の社外取締役など兼務。2014年「なぜ、川崎モデルは成功したのか?」を上梓、「地方創生」の一翼を担う。



嶋野武志

産学官連携戦略本部
教授

第6回

7月23日(木)
19:00～20:30

「希望あふれる長崎県」 づくりに向けて

～地方創生 長崎県～

長崎創生に向け、本県の人口減少の現状を示したうえで、人口減少克服に向けた課題等を整理し、目指すべき将来像を展望。そのうえで、本県の進むべき方向や今後取り組むべき主な施策を紹介。また、本県の将来を支える若者に対し、地元に住むことの良さ、結婚・子育ての意義について語りかける。



中村法道
長崎県知事

昭和25年11月29日長崎県有家町(現南島原市)生まれ。昭和48年3月長崎大学経済学部を卒業後、同年4月長崎県採用。秘書課長、対馬支庁長、農林部長、総務部長、副知事を経て平成22年3月2日から現職。



片峰 茂

長崎大学長